

平成25年度・第53回全国審判講習会に参加して

南支部審判委員 星野 公人

日本高等学校野球連盟主催による平成25年度・第53回全国審判講習会が、平成25年4月27日～28日の二日間、晴天のもと阪神甲子園球場において開催されました。甲子園球場の土、芝生を踏みしめられる事に心から感謝し、少しでも『甲子園の心』に触れる事ができれば……という思いでこの講習会を受講してきました。高校野球審判の手引き(平成25年度)の変更点を実技で講習、また高校野球の審判委員としての心構えなど、ご教示いただいた事をご報告させていただきます。

1. 高校野球審判の手引き(平成25年度)における主な変更点等について

a. ゼスチャーの統一 8. 第三アウトの成立と他の走者の本塁到達が重なった場合 「タイムプレイ」 P-75

(1) 第三アウトの成立よりも本塁到達の方が早かった場合

- ・ 走者の本塁到達が早かった瞬間本塁をポイントとして「Score」とコールする。
- ・ 【変更点】⇒**アピールプレイが残っているか否かに関係なくホームプレート**を指差し「That run scores」とコールする。
本部席に得点が入った事を明示する。「Score that run」◎得点を周囲に知らせる。
もし守備側よりアピールがあり、それを認めれば「No run scores」とコールして訂正する。
- ・ 【昨年まで】⇒**アピールがなかった事を確認の上「Score」・「Score that run」と本塁をポイント**し、得点のシグナルを送る。
これに対し、第三アウトの成立が早く、得点にならなかった時は「No run scores」のシグナルを送る。

*アピールプレイに関係なく「タイムプレイ」が発生して得点が入った場合は、周囲に得点が入った事を知らせるのが肝要であり、このタイムプレイに関しては何回も実技講習しました。私は下記のような場面に出くわし頭が真っ白になり対処できず……。良い経験?をさせていただきました。

〔場面〕一死満塁、センターフライ、三塁走者は正しくリタッチせずに本塁へ進塁。中堅手はフライを捕球して二死。二塁走者は、正しくリタッチして三塁へタッグアップ、それを見た中堅手は三塁へ送球し、二塁走者は三塁手前で憤死。その後、守備側から三塁走者のリタッチに対するアピールがあり、そのアピールを認めたので得点入らず、スリーアウトチェンジ。

〔その時の心境〕三塁走者のリタッチの早い事を確実に確認したので、アピールがあったら「No run scores」にしようという事だけを考えていた。

* 1年に1回あるかないかのプレイかもしれませんが、いくつかのプレイを落ち着いて整理する事が重要であると感じました。

b. ゼスチャーの統一 15. 走者の「ラインアウト」を宣告する場合 P-76

- ・**まず走者に「アウト」の宣告をして「ラインアウト」とコールし、ラインアウトの場所をポイントする。(変更せず)**
⇒他の団体では、「ラインアウト！」そして「ランナーアウト！」という宣告としているが、高野連では、タイムプレイを重視するという観点で「アウト」のコールを先にする事とした。変更せず残した。

c. ゼスチャーの統一 24. 本塁周辺における出会い頭のプレイ P-78

- ・守備妨害も走塁妨害もなかったものとみなした場合、**ノーボイスで両手を広げてセーフと同じゼスチャーをする。**(ナッシングは言わない)
⇒手を広げて選手を含め周囲に「何も無いよ、インプレイだよ」という事を知らせる。今年はノーボイスでやってみる。〔例〕二塁走者の三盗、捕手の送球がただ立っている打者に当たる。当たった瞬間にノーボイスで両手を広げてナッシング(打者の妨害も何も無いヨ!)とお知らせする。

d. ゼスチャーの統一 6. 故意落球の場合、該当審判員が「タイム」を宣告する P-74

- ・【変更点】⇒該当審判員が「タイム」を宣告し、野手に向かって「故意落球」「バッターアウト」まずはプレイを止める。
- ・【昨年まで】⇒球審が「フライアウト」次に「タイム」を宣告。

e. ゼスチャーの統一 14. 同一塁上の二走者に対してタッグプレイが行われた時 P-76

- ・二人の走者に対して「貴方はセーフ」「貴方はアウト」と教えてあげる。手引きには書いていないが、セーフを先にコールする。「You セーフ！」⇒「You アウト！」セーフと言われた選手は、その塁にとどまっているからトラブルを回避しやすい。

f. 大会運営上の留意事項 (19) 危険防止のため次の事を徹底する。 P-67

- ③ 次打者の待機姿勢
- ・【変更点】⇒低い姿勢とは……座る行為も当てはまるが、**投球に注視して、すぐに避けることのできる姿勢**を意味する。(追加)

g. 高校野球特別規則 22.8.05 ペナルティーの死球の取り扱いについて P-31

- ・平成25年度版において追加。

h. 高校野球特別規則 15. 変則ダブルヘッダーの規則(同一投手の投球回数) P-28

- ・合計9イニングが平成25年より15イニングに増えた。高野連・軟式部より9イニングでは短いと指摘有。

i. 高校野球特別規則 3. ヘルメットの着用 P-23

- ・バットボーイも両耳付きヘルメットを着用する。危険防止のため。

2. 講習会において

a. 球審について

- ・打者の高目に目線を置く(合わせる)
- ・ゲットセット …… 早めに入る。待つ事によってタイミングが取れる。投手からすると投球動作中に球審が動くと思われずらいものである。
- ・打者がバッターボックスに移動してくる時に、その打者の高さを掴み取る。背の高い打者もいれば低い打者もいる。その打者の高低のイメージを作る。
- ・フェアの判定、マウンド方向(センター方向)を差して腕は水平よりやや上方に上げると周囲にわかりやすい。

b. 塁審について

- ・最初の一步が大事。
- ・打球を観客の方のように静観しない事。とにかくどんな打球に対してもスタートを切る癖を身につけてほしい。
- ・自分の後方直線の飛球は、目を切つてはいけない。三塁塁審での外野飛球判定では、打球を見失ってしまった。甲子園はスタンドが広く、高いので打球がスタンドの上空に出にくい。よって打球を見失いやすいのか？
- ・無死(一死)満塁ベース付近のサードゴロ、三塁手が捕球しキャンパスバックを踏んで二死、三塁手は本塁へ送球。三塁塁審は、フォースプレイが解かれた事を球審に伝達する事が大事。手を大きく上げてアウトのコールを球審に見せる。自分だけではなく“周囲”“他のアンパイア”に**伝達する、お知らせする**事を強調されていた。
- ・止まって見るとは、足、腰、顔の三つが静止してはじめて止まって見る事ができる。足が止まっても腰が動いていれば顔も動く、目も動く。足、腰が止まっても顔が動けば目も動く。

c. 二人制フォーメーションのイメージトレーニング

- ・二人しかアンパイアがない …… ポーズ⇒リード⇒リアクト が重要な技術となる。
- ・二人制をやることで視野が広がる。三人制、四人制での余裕、幅が生まれるのでトライしてほしい。



3. 甲子園の心

*講習会二日目の午後だったと思います。講習内容は走者を二塁、三塁などにおいてのフォーメーション練習。白球を真剣に追う選手に対し、審判委員の的確でない動きが続いた時でした。関西弁で「全員集合やあ！」と呼ばれ受講生全員が本塁周辺に集合し、芳川芳登審判技術顧問のお話を聞くこととなりました。「**心を持ってグラウンドに立ってほしい！**こんな態度では選手に失礼だ！」「高校野球審判の手引きの80ページ冒頭に書かれてある事を大事にしてほしい！」80ページの冒頭には、次のような事が書かれてあります。『**高校野球の選手は審判員に全幅の信頼をおいています**』……………短い文章ですが、身が引き締まりあらためて高校野球の審判委員として高校球児に対し何をすべきかを問い直す気持ちになりました。

又、夜の座学において赤井淳二委員長から「**信頼されるアンパイア**」(生徒、監督先生、部長先生、審判仲間から)とは、「**信頼される社会人**」(会社、取引先、仕事仲間、地域から)であるというお話がありました。審判だけがうまいでは、信頼されるアンパイアにはなれないという事であり、世間から信頼される社会人となる、選手から信頼される審判委員となる事を心掛けて高校野球に接していきたいと思います。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださいました新潟県高等学校野球連盟関係者の皆様、審判部、審判委員の皆様にご心より厚く感謝申し上げます。又、愛情を持って指導していただきました日本高校野球連盟審判委員の皆様、二日間お世話になりました全国各地の審判委員の皆様にお礼を申し上げ全国審判講習会のご報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

